

2016(平成28)年度 西南学院大学 更新講習開設一覧

講習日	受講対象者	募集人数	講習の名称	講習の概要	到達目標	評価方法	担当講師	会場	備考
7月21日(木)	中学校・高等学校教諭(英語)	30人	【選択】 英語科教員のためのスキル養成講座	中学校、高等学校の英語科教員にとって必要なスキルのうち英語学力の評価法について取り上げる。英語学力の測定と評価に役立つ基本的な概念を理解していただくとともに、テストの質的検討をする際に役立つ具体的な分析法を習熟していただく。	①教育測定・評価の基本を理解し具体的な分析に応用できる。 ②テスト理論の基本を理解しテスト作成と分析に応用できる。 ③英語テストの分析と改善方法を自分で考え実施できる。	筆記試験を行い、総合的に評価する。	伊藤 彰浩 (文学部教授)	西南コミュニティーセンター 2階会議室	
7月29日(金)	小学校・中学校・高等学校・養護教諭	30人	【選択】 判例から読み解く子どもの安全・学校の安全	近時、「安全・安心」は学校教育の重要課題となっている。本講習では、まずいくつかの学校事故判例を素材に、教師の安全配慮義務について確認する。そして、受講者の経験交流やディスカッションを行い、事故・事件・災害から子どもと教師を守るための課題や具体的方策について考察を深める。	①子どもや学校教育にとっての「安全」の意味を理解する。 ②学校・教師の義務について理解する。 ③事故防止の課題や防災教育のあり方について考察を深める。	筆記試験を行い、総合的に評価する。	吉岡 直子 (人間科学部教授)	西南コミュニティーセンター 2階会議室	
7月29日(金)	中学校・高等学校教諭(英語)	30人	【選択】 英語教育のためのジャンル分析入門	英文を読む・書く際、英語の「慣習」を理解していれば効果的に作業を行うことができます。ネイティブスピーカーは無意識にこうした慣習を習得していますが、英語学習者は、ジャンル分析を行うことによって英語の慣習を効果的に学習することができます。本講習では、ジャンル分析を行ったことがない方を対象にジャンル分析とは何かを紹介し、実際にジャンル分析を行っていただきます。更に、英語授業におけるジャンル分析の応用例を紹介します。授業はすべて英語で行われます。	①ジャンル分析について理解し、英文テキストを使って実際に分析を行う。 ②ジャンル分析を通して、それぞれのコミュニケーションで用いられている英文の慣習を認識し、理解を深める。	筆記試験を行い、総合的に評価する。	リチャード ホドソン (文学部准教授)	西南コミュニティーセンター 1階多目的室	
8月3日(水)	小学校教諭、中学校教諭(理科)	15人	【選択】 ミクロの世界の探究	ミクロの世界の探究法は、顕微鏡観察のように対象物を直接拡大して見る方法や、X線回折や分子分光のように対象物と光の相互作用の測定から間接的に見る方法がある。本講習では、最初にそれぞれの測定法の原理を身の回りの材料を用いて解説し、続いて、走査型電子顕微鏡やX線回折装置や紫外・可視分光器などを用いて昆虫や食塩結晶やシャボン玉の薄膜などの観察・測定実習を行う。	電子顕微鏡やX線回折装置や赤外・可視・紫外分光器を用いた実験・実習を通して、原子・分子をはじめとするミクロの世界についての理解を深めること。	受講態度、実験・実習への参加状況、および筆記試験により総合的に評価する。	松村 敬治 (人間科学部教授) 塩野 正明 (人間科学部教授)	5号館3階 305教室 (理科教室)	
8月4日(木)	幼稚園・小学校・中学校・高等学校教諭	20人	【選択】 特別支援教育を必要とする児童生徒の理解と支援	平成19年度より始まった特別支援教育は、全国の通常の学校に定着し、個に応じた教育的支援の必要性は高まってきている。この講義では、それぞれに所属する場で、子どもたちが「どこでつまづいているのか」「どう教育していけばいいのか」の具体的な支援のあり方について参加者と一緒に考える機会を持つことで教師力のレベルアップを図る。	①通常学級における特別支援教育の実践力を向上する ②子どもたちがどこでどうつまづいているかを理解する ③教育や支援の評価について理解する	講義内容全般にわたってどの程度理解されたか筆記試験を行う。	野口 幸弘 (人間科学部教授)	西南コミュニティーセンター 2階会議室	
8月5日(金)	中学校・高等学校教諭(英語)	28人	【選択】 英文法に表れた世界のとらえ方	この講習では、英文法を単なる規則の集合体としてとらえるのではなく、人間の世界の見方、とらえ方が、英文法にどのように反映されているかという観点から見直していく。たとえば英語には「数えられる名詞」と「数えられない名詞」があるといわれるが、その違いはどこから来ているのか、英語の構文には、話者の事態認知のあり方がどう関わっているかなどの問題を取り上げる。	①ことばが人間の世界のとらえ方を反映していることを理解する。 ②数えられる名詞と数えられない名詞の違いを説明できる。 ③出来事のとらえ方の違いと、構文の関係を説明できる。	筆記試験を行い、総合的に評価する。	川瀬 義清 (文学部教授)	西南コミュニティーセンター 2階会議室	
8月9日(火)	幼稚園・小学校教諭、養護教諭	30人	【選択】 子どもと家族を支える教員の役割ー福祉的視点からの再考ー	子どもと家族の今日的課題について福祉的視点から理解を深め、教員としての役割を再考することを目指す。講習では、児童虐待、子どもの貧困、発達障害等の児童福祉問題の現状と課題および支援の実践について、ソーシャルワークの知識・技術をふまえて概説する。また、具体的な事例をもとに、グループでの検討を行う。	①子どもと家族の今日的課題を理解し、教員の役割を再考することができる。 ②教育と福祉の連携の可能性を探求し、教員の専門性を考察することができる。 ③グループワークに積極的に参加し、個々の教育上の課題を明確化し、ソーシャルワークの知識を教育支援に活かす可能性を探ることができる。	筆記試験を行い、総合的に評価する。	山本 佳代子 (人間科学部准教授)	西南コミュニティーセンター 2階会議室	